

報告 2

「令和4年度第三者評価委員会による二次評価結果について」

自治体・協議会名	各務原市地域公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・チョイソコ研究会で市内のタクシー事業者と意見交換し、新しい取り組みとして輪番制での効率的な運行を行ったことを評価します。また、本格運行に移行し、エリア拡大して利便性向上に努めたことを評価します。
- ・バス事業者だけでなく、観光施設と連携して、企画乗車券(デジタルチケット)を発行したことを確認しました。
- ・川島地区から笠松駅等をつなぐ笠松川島線の新設にあたり、補助を行うなど公共交通を維持するための取り組みが行われたことを確認しました。
- ・継続的に地域住民との懇談会を実施し、利用者のニーズや満足度などを把握しているだけでなく、社会福祉協議会とタクシーの活用について検討されている等様々な関係者と連携運動して取組を進められていることを大変評価します。
- ・地域公共交通計画の基本方針毎に、様々な工夫した取組が実施され、また、立地適正化計画の中に「ふれあいバス」を位置づけ、都市全体の構造を見渡しなが、持続可能な地域交通の確保・充実を推進していることを大変評価します。
- ・「ふれあいバス」が各路線で目標値を達成していることを大変評価します。

期待する取組

- ・チョイソコについては、引き続きタクシー事業者やスポンサー企業などと連携してより利便性の高いものとされることを期待します。
- ・市やバス、タクシーに加え、鉄道や観光施設などと連携した「共創」による持続可能な地域公共交通の確保・充実が更に推進されることを期待します。
- ・交通以外の分野(教育・医療・介護など)も含めた地域の多様な関係者と協議しながら、地域に合った適材適所の交通サービスの実現に向けて、地域が主体となって新たな交通計画が策定されることを期待します。
- ・市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。